発見！牛久のお宝

問 文化芸術課（中央生涯学習センター内）☎871-2300

第16回　古代の火葬と祈り

— 田宮平遺跡（田宮町）—

火葬は仏教とともに日本に伝わり、僧道昭が700年に火葬されたのが最初とされています。火葬した骨は拾い集められ、蔵骨器に入れて墓穴などに埋葬されました。蔵骨器とは、骨壷のことで、蔵骨器専用に製作される場合と、他の容器を転用する場合があります。

平成30年に田宮平遺跡から、平安時代の土師器の甕形土器と坏形土器が発見されました。甕形土器の中から骨などは確認されませんでしたが、坏形土器で蓋をし、蔵骨器として使われていたと考えられます。平安時代、火葬は貴族や役人などの階層のみで行われていたことから、田宮平遺跡で発見された蔵骨器には、この地域の特権階級の人が埋葬されていたと思われます。

田宮平遺跡出土の蔵骨器
（高さ約25㎝）

◆今回紹介した蔵骨器は、中央生涯学習センター展示ホールで展示中

里山の樹木

問 都市計画課
☎内線2524

第46回　スダジイ

①若葉開葉期の樹冠：城中町の斜面林（平成24年5月23日撮影）

②果実（殻が3つに割れて種子が露出したところ）：牛久自然観察の森（平成21年10月29日撮影）

福島県以南の暖温帯に分布し、市内では斜面林に自生するほか、社寺境内や公園・庭園に植栽されています。ブナ科シイ属の常緑広葉樹で照葉樹林を代表する樹種であり、一般にはシイノキと呼ばれています。葉は互生、厚い革質、長楕円状卵形で長さ5～15㎝、表面は深緑色・裏面は灰褐色。雄花序は新枝の基部の葉腋に径約3㎜の小花を穂状につけ、雌花は径約1㎝。果実は堅果（ドングリ）で、翌秋に成熟、果実の殻（殻斗）が3つに割れて種子のみが落下、生でも食べられ、かつては重要な食物でした。ドーム状の大きな樹冠をつくり、新緑5～6月に黄金色の花に染まる樹姿は見事です。「市民の木」に10本指定されています。

※牛久の里山樹木ハンドブック64ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森（☎874・6600）まで。

【資料提供】NPO法人うしく里山の会（文章：羽賀正雄、写真：①渡辺泰、②戸塚昌宏）

「牛久の巨樹」発売中　※お求めは都市計画課まで（1,200円）

文芸さろん｜神無月｜

夕暮れを映してかがやく稲穂かな　リビッツ
渡るには野の空広し秋の蝶　髙階さん
コスモスの可憐な姿いやされて　草葉
残暑見舞の絵手紙を描く　我氏
秋刀魚買い七輪を買い炭を買う　静枝
夕日さす黄金ロードの案山子かな　倭文子
アイネクライネナハトムジーク秋暑し　月田さん
運動会応援合戦さわやかさ

＜次回募集テーマは「秋」＞

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など
【あ て 先】〒300-1292 牛久市中央3-15-1
「広報うしく文芸さろん」係　FAX：873-2512
E kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp
【記載事項】作品、氏名、電話番号
匿名希望の方はその旨（ペンネームもOK）